

社会認識と自分なりの解釈を深めることを通して、 社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける社会科の学習

I 社会科研究の方向性

1 主題設定の理由

グローバル化の進展や技術革新により社会の実態は大きく、急速に変化しており、一人一人が持続可能な社会の担い手として社会参画の意識をもつことが必要な時代になっています。社会科では、新学習指導要領において、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や構想したことを説明する力、それらを基に議論する力などを育てることが求められています。

しかし、全国学力・学習状況調査質問紙調査の結果を見ると、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は約50%であり、半数は地域や社会の成長に目を向けることができているとは言えません。本校においては、全国平均よりも高い68.5%の児童が肯定的に回答しているものの、より一層、社会の形成者として社会参画への意識を高めていく必要があります。

これまで本校では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に課題を追究したり、解決したりする活動を通して、主体的に社会に関わる態度を育てることを重視して研究を進めてきました。社会的事象について複数の視点や立場で捉えたり、社会的事象を関連付けたりすることによって、概念的な知識を獲得する児童の姿が見られました。しかし、社会的事象と自己を結び付けて、社会への関わり方を選択・判断することに関して苦手意識をもっている児童が多くおり、社会の在り方や自己の関わり方を構想する手立てが十分ではないという課題が残りました。

全体研究主題「探究する子供を育てる教育活動の創造」を受けて、社会科における探究の姿を「問題解決の過程を通して、社会の在り方や自己の生き方を追究する姿」と押さえました。

そこで、研究主題を「社会認識と自分なりの解釈を深めることを通して、社会の在り方や自己の生き方を問い続ける社会科の学習」と設定しました。「社会認識と自分なりの解釈を深める」とは、問題解決的な学習の中で、社会や人々の営みを適切に理解するとともに、社会的事象の特色や意味について自分なりに根拠をもって捉えることです。「社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける」とは、過去や現在の社会、人々の営みを基にして、「何が大切なのか」「どのようにしたらよいのか」といった問いを生み、価値的・判断的な知識を獲得することです。

2 目指す児童の姿とその具体

社会に見られる課題を捉え、自分なりに問いを見いだす姿

「社会に見られる課題を捉え」とは、生活経験やこれまでの学習、新たな資料を基に社会の実態について理解することです。

「自分なりに問いを見いだす姿」とは、これまでの学習や社会的事象との出会いにより生じた疑問や追究への意欲を基に学習問題をつくり、学習問題の解決に向けて調べるべきことを捉え、追究しようとする姿です。

II 研究内容の具体


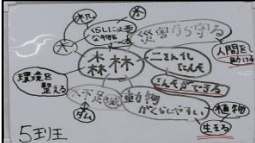

1 獲得した知識を基に社会の在り方や自己の関わり方を問いつける単元構成

児童の思考・判断・表現の基になる知識を単元内に位置付けるとともに、それぞれの学習過程で育む資質・能力を明らかにすることで、問題解決的な学習が展開され、知識を深めながら社会の在り方や自己の関わり方について問いつける学習が成立すると考えました。

学習過程 獲得する知識（学習内容）		育む資質・能力
I 学習問題をつかむ。 ①問いを基に、学習問題を設定する。 学習問題：日本の工業は、これから世界とどのように関わっていくとよいのだろう。 ②予想する。 ③学習計画を立てる。		○既習内容を整理する力 ○学習問題を見いだす力 ○思考力や判断力、洞察力 ○先見力
II 学習問題を調べる。 事実的な知識 ・国内生産のみならず、海外生産も増加している。 ・自由な貿易を推し進められる一方で、国内の産業や国民生活への影響が心配されている。		○観察、見学、調査などの技能 ○収集、選択、分析、加工、整理する資料活用力
III 学習問題をまとめる。 概念的な知識 日本の工業は、互いの国の産業や国民生活のことを考え、他国とのバランスを保ちながら世界とつながっていくことができるとよい。		○情報を整理、統合する力 ○全体を構成する力 ○思考力や判断力、考察力
IV 社会や自己について思考・判断・表現する。 価値的・判断的な知識 自分の国に有利な貿易を続けると、相手の国や人々を苦しめることになるが、国内で工業生産を続けることは難しくなっているため、今以上に世界と共に工業生産を進めていく必要がある。		○生活や社会での活用力 ○学習での転移力、応用力

2 自分なりに学習問題を見いだす指導の工夫

社会の在り方や自己の関わり方を問いつけるためには、社会的事象から見える社会の課題や必要性、切実感等を基に学習問題を自分なりに見いだすことが大切です。そこで、自分なりに学習問題を見いだすことにつながる資料の提示方法や学習活動について研究を進めました。

社会的事象の変化を用いた資料	思考ツールによる思考の拡散・整理	数値やグラフを用いた社会認識
3年「くらしを守る」 	5年「森林を守る人々」 	5年「自然災害とともに生きる」 

3 社会の在り方や自己の関わり方を問いつける姿を見取る評価

児童が社会的事象と自己を結び付け、社会の在り方や自己の関わり方を問いつける姿を適切に見取るために、子供たちが思考・判断したことを、表現活動と一体化させました。そうすることによって内容を可視化することができ、児童へフィードバックすることができます。

ノート等の内容	1時間の課題に対するまとめや学習問題に対するまとめについて、事実的な知識や概念的な知識が獲得できているかを見取る。
関連図などの表現	ウェビングマップ等を用いて、学びの深まりや広がり、関連思考を見取る。
実践的活動の設定	現実的な状況や社会に則した立場等を設定し、知識や技能を応用する力を見取る。 (例) 自治体のホームページで防災に対する取組に関するページを担当することになったあなたは、どのようなことを伝えますか。

< 1年次研究の重点 >

- ・知識を深めながら、社会の在り方や自己の関わり方について問いつける単元構成
- ・思考ツール、数値やグラフ等の資料を用いた社会認識による学習問題づくり

Ⅲ 研究実践

5年生実践 『自然災害とともに生きる』

実践のテーマ：社会認識を基に防災対策の必要性を捉え、
自分なりの学習問題を見いだす学習

1 研究授業のねらい

本単元は、我が国で起きる自然災害や防災対策について調べる活動を通して、減災に向けて、国や都道府県、市町村などが計画的に様々な対策を進めていることを理解するとともに、地域や家庭で自分ができる取組について考えることをねらいとしました。

実社会の姿を的確に捉え、自分なりの学習問題を見いだすことができるように、日本で発生した自然災害の被害状況について調べたり、自然災害の影響について考えたりして、自然災害と向き合い、減災に向けた取組を進めることへの必要感をもたせました。学習問題を設定した後に、「国・都道府県・市町村」と「地域・家庭」の立場で取り組む防災対策について調べ、これからの社会の在り方や自分が日常的に取り組めることについて構想する学習を目指しました。

2 単元の指導計画（5時間扱い）

段階	時間	◇主な学習活動 ・ 学習内容	社会の在り方や自己の関わり方を問いつける児童の姿	○育む資質・能力
学 ぶ め あ て を も つ	①	◇教科書の地図や表から、日本の自然災害の状況についてを理解する。 ・日本では、全国で様々な自然災害が発生し、人々の暮らしに大きな被害をもたらしていること（ 事実的な知識 ）。	日本では様々な自然災害が発生し、大きな被害をもたらしていることを理解している姿。	○社会を認識する力
	② (本時)	◇自然災害による人々の生活や命への影響や防災対策の必然性を捉え、学習問題を見いだす。 ・災害の多い日本において防災対策は必要不可欠であること（ 概念的な知識 ）。 学習問題：私たちの暮らしや命を奪う自然災害の被害を少なくするために、誰がどのような取組を進めているのだろう。 ◇学習計画を立てる。	日本において減災に向けた取組が不可欠であることを捉え、学習問題を見いだしている姿。	○学習問題をつくる力 ○思考力や判断力 ○先見力
確 か な 追 究 ・ 解 決	③	◇国や都道府県、市町村、家庭における防災対策について調べる。 ・国や都道府県、市町村が様々な公共事業を行っていること（ 事実的な知識 ）。 ・町内会などの地域で助け合うことや一人一人にできることを考え、日常的な取組としていくことが大切であること（ 事実的な知識 ）。	日本で起こる自然災害や、災害から暮らしを守る取組について様々な資料を基に調べている姿。	○収集、選択、分析、加工、整理する資料活用 力
	④	◇防災対策について調べたことを交流する。 ・それぞれの立場で減災のために計画的に取組を進めていること（ 概念的な知識 ）。	防災対策について、「減災」「計画性」の視点で考えている姿。	○情報を整理、統合する力 ○考察力
ま と め	⑤	◇学習問題に対するまとめを考える。 日本の国土では、多くの自然災害が発生し、それらの被害を少しでも減らすために、国や都道府県、地域の住民などが計画的に様々な対策を進めている。それに加えて、私たち一人一人が日常的に防災に対する意識をもって行動することが大切である。 私は、これまでハザードマップを見たことがなかったが、いつどのような災害が起きても冷静に判断できるように、家の周りの危険なところを確認したい。（ 価値的・判断的な知識 ）	調べたことを基に、社会の在り方や自己の関わり方について表現している姿。	○生活や社会での活用力 ○学習での転移力、応用力

3 本時の学習

(1) 本時の目標

自然災害が人々の生活に大きな影響を及ぼすことや、災害の多い日本における防災対策の必要性を捉えることを通して、学習問題を見いだすことができる。

(2) 本時の展開（5時間扱いの2時間目）

学習活動と学習内容	研究との関わり・留意点								
1 前時の学習を想起し、課題を設定する。									
課題：学習問題をつくろう。									
2 「自然災害によって…」の続きを考え、個人でウェブマップにまとめる。									
3 個人で書いたウェブマップを基に、グループでウェブマップを書く。 ・様々な被害が出る。 ・人の命が奪われる。 ・多くの協力が必要な状況になる。	・思考を広げることを意識させる。								
4 各グループでまとめたウェブマップを比較、関連させて、個人でキーワードを考える。	◇自分なりの学習問題を見いだす指導の工夫 研究視点2								
5 考えたキーワードを全体で交流する。	キーワード:全体に当てはまることや中心となる事柄。								
6 新たな事実を知り、防災対策を進める意味を考える。 ・今後30年間で根室市、釧路市などでは大きな地震が発生する可能性が極めて高いこと。 ・自然災害を人間の手で防ぐことは不可能であること。 ・災害の多い日本では防災対策が必要不可欠であること。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎30年以内に震度6弱以上がくる可能性</p> <table border="1"> <tr><td>根室市</td><td>78%</td></tr> <tr><td>釧路市</td><td>69%</td></tr> <tr><td>千葉市</td><td>85%</td></tr> <tr><td>横浜市</td><td>82%</td></tr> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自然災害の発生を人の力でおさえることはできません。</p> </div> </div>	根室市	78%	釧路市	69%	千葉市	85%	横浜市	82%
根室市	78%								
釧路市	69%								
千葉市	85%								
横浜市	82%								
7 個人で学習問題を書き、全体でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習問題の例</p> <p>私たちの暮らしや命を奪う自然災害の被害を少なくするために、人々はどのような取組を進めているのだろう。</p> </div>	◇社会の在り方や自己の生き方を問い続ける姿を見取る評価 研究視点3								
8 本時の学習を振り返る。	【イ 思考力、判断力、表現力等】 日本において減災に向けた取組が必要不可欠であることを捉え、学習問題を見いだしている。（発言・ノート）								

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

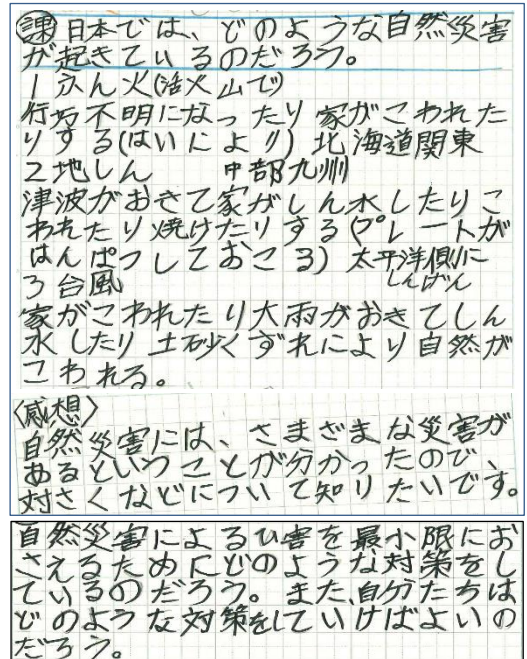
自然災害の多い日本において減災に向けた取組が必要不可欠であることを捉え、学習問題を見いだしている姿。

4 授業の実際

獲得した知識を基に社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける単元構成

問題解決の過程の中で、社会的事象について知り、自分なりの解釈をもつことによって、社会の在り方や自己の関わり方を問い続けることができると考えました。そのために、「事実的な知識」「概念的な知識」「価値的・判断的な知識」について指導計画に明記し、知識の深まりについて構造化するとともに、問題解決への意識を持続させる学習問題づくりについて研究を進めました。

本単元では、学習問題を設定する前に、これまでに日本で発生した自然災害について調べ、自然災害と日本の国土との関係についてまとめました。国土の関係から日本は自然災害と向き合う必要があることを実感し、防災対策が日本にとっての喫緊の課題であることを認識しました。次時において、これまでの生活経験や1時間目の学びを基にして一人一人が学習問題を考えました。このように、学びの連続性をもたせることによって、学習問題の解決に向けた学習展開が可能になるとともに、社会的事象への関心を持続させ、社会と自己を切り離すことなく自分事として問題解決を進めることができました。



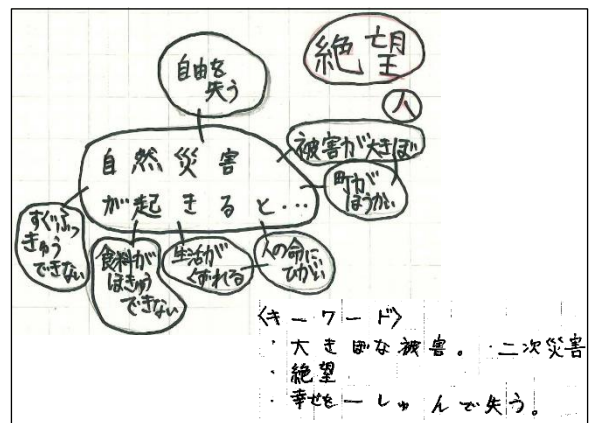
【1時間目の調べ学習と2時間目の学習問題】

自分なりに学習問題を見いだす指導の工夫

生活経験や既習内容、新たな資料について理解し、自分なりの解釈をもつことが、自分なりの学習問題を見いだすことにつながると考えました。

本時では、これまでの学習を想起しながら、ウェビングマップを用いて「自然災害の影響」について考えを広げました。始めに個人でウェビングマップを書き、次にグループで考えを合わせました。更に全てのグループのウェビングマップを見て、全体に当てはまることや中心となる事柄を「キーワード」として捉え、全体で交流しました。この一連の活動を通して「絶望である」「人々の暮らしや命、幸せを一瞬で奪う」という自然災害の特色を捉えることができました。

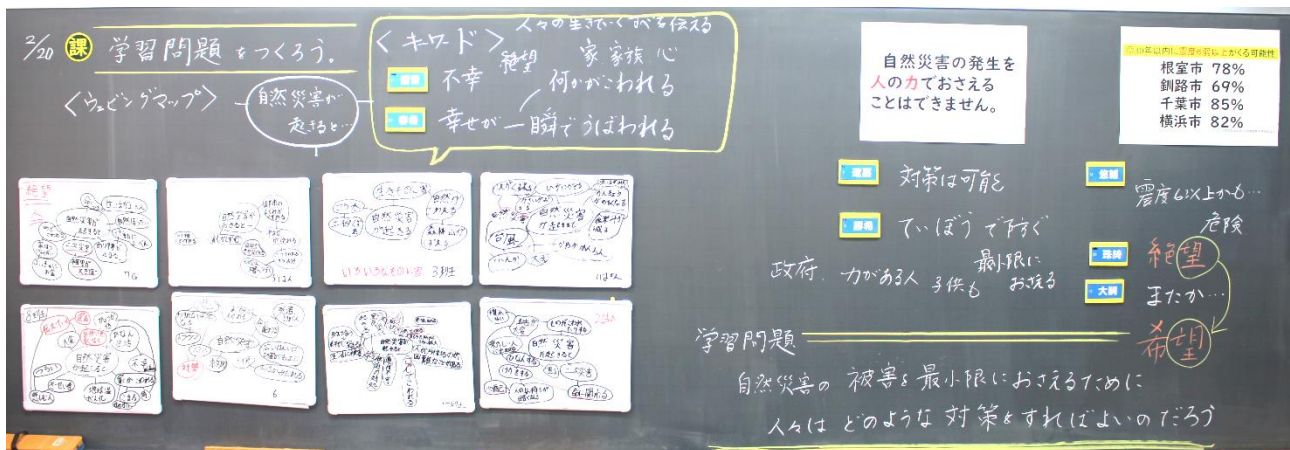
防災対策への必要感をもたせるために、地震調査委員会の「30年以内に震度6弱以上の地震が発生する可能性」に関するデータと教科書の「自然災害を人の力で抑えることはできません」という記述を資料として提示しました。この2つの資料から児童は、「防災対策が必要不可欠であること」と「自然災害の発生は防ぐことはできなくても、被害を抑えることはできること」を捉えました。学習の最後に自分なりの学習問題を記し、全体で交流しました。「自然災害の被害を最小限に抑える」という視点を多くの児童がもつことができた一方で、「誰が」「どのような組織が」といった多角的な視点をもつことができていなかった児童もあり、右の児童の記述を基に「人々」という言葉を学習問題に入れるべきか話し合いました。その結果、「国やその他の組織、市民等それぞれの立場で防災対策を行っているのではないか」という考えに至り、学習問題に「人々」という言葉を入れることの意味について共有しました。



【ウェビングマップとキーワード】

学習問題①
 自然災害に対して人々は、どのようなたいさくを考え、どんな活動に取り組んでいるのだろうか。

【児童が考えた学習問題】



【本時の板書】

IV 1年次研究の成果と課題

社会科では、研究テーマを「社会認識と自分なりの解釈を深めることを通して、社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける社会科の学習」と設定し、「獲得した知識を基に社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける単元構成」「自分なりに学習問題を見いだす指導の工夫」「社会の在り方や自己の関わり方を問い続ける姿を見取る評価」の3点を中心に研究を進めました。

1年次研究では、「知識を深めながら、社会の在り方や自己の関わり方について問い続ける単元構成」「思考ツール、数値やグラフ等の資料を用いた社会認識による学習問題づくり」を重点として研究を進めました。

1 研究の成果

- 知識の深まりとそれに必要な資質・能力を明らかにした単元を構成したことによって、学びの連続性を生み、問題解決への意欲を持続させることができました。
- 学習問題づくりに効果的な思考ツールや資料の提示方法について研究を進め、既習内容や生活経験を基に一人一人が実社会の課題を捉え、学習問題を見いだすことができました。
- 個人の学習問題を記した後に、学級で交流する時間を設定しました。互いの考えや視点を交流することで、調べるのが明らかになり、次時からの調べ学習につながりました。

2 今後の課題

- 学習問題を考える学習で、「誰が」「どのような組織が」といった「多角的な視点」をもつことができなかつた児童がいました。人々の営みを実感できる社会的事象の資料化について考える必要があります。
- 学習したことを基にして、学習問題に対する自身の考えをまとめる活動において、表現方法や単元の終末まで問題意識を持続させる方法について考える必要があります。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領 文部科学省 東洋館出版社 平成29年3月
- 小学校学習指導要領解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 小学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 日本文教出版 平成29年6月
- 初等教育資料 No. 979「新学習指導要領に向けた指導の在り方」文部科学省 東洋館出版社 令和元年5月
- 初等教育資料 No. 989「学習評価の改善と指導の充実」文部科学省 東洋館出版社 令和2年1月
- 思考力・判断力・表現力を鍛える新社会科の指導と評価 北俊夫 明治図書 平成29年9月
- 見方・考え方 社会科編 澤井陽介・加藤寿朗 東洋館出版社 平成29年10月